

{ 昭和34年7月20日 } (毎月10日発行)
{ 第3種郵便物認可 }

広報

かわにし

昭和51年 12/10 No.220

人口の動き
12月1日現在

男	5,151 (-6)
女	5,228 (-6)
計	10,379 (-12)
世帯数	2,354 (-2)

()内は前月比較

発行 川西町・町長 根津正三 編集 企画室広報係 定価 1部5円 印刷 白南風社



ことしも先月十二日に合同しゅん工式を
行いました。

国や県、町の事業を含めた投資額はおよ
そ二十三億円、町づくりの手は休みなく続
けられています。

写真の大島橋(室島地内)もその一つ、
竣工式当日には渡りそめを行いました。

12月の休日救急医

- 12日 池田医院 2-2581
- 19日 山口医院 2-2174
- 26日 富田医院 2-3264



1月の予定

- 1日 庭野医院 2-2711
- 2日 中条病院 7-3018
- 3日 大島医院 2-2957
- 9日 至誠堂医院 2-3276

新年は元旦マラソンから

- 1 とき 1月2日
- 2 ところ 総合センターへ集合
- 3 コース 2キロ及び4キロメートル(年齢別)

主催は、町陸上競技協会、体育協会
など。

申込み、協会事務局(役場税務課
TEL 8-3111 田村)まで。

川西分校が 念願の独立高校に 校名もまもなく決ります

高校の川西分校が、来年度からいよいよ独立高
校としてスタートすることになりました。

これは、先月十二日に、県の教育委員会か
ら発表されたもので、さらに、十二月の
県議会において校名の決定やら、正式

皆さんの 熱意の結果です

私たちの町にも是非全日制の
高校を、と地元の強力な呼びか
けがはじまったのは、今から五年

ほど前、仙田の定時制高校が閉校
するところからでした。

年ごとに向上する進学率と、反
面では受け入れる校舎の狭あい、
そんなことが手伝って、この町へ
の高校誘致の願いは、一層強いも
のとなりました。

君知事の青空対話集会でも、強力
に訴えました。
ご承知のように、町で四、五ハ
クタールに及ぶ用地の確保や、教
育センターを県に提供して、高校
教育にあてていることは、一日も
早くこの町に独立高校がほしいと
する町、皆さんの一丸となった熱
意のあらわれにほかならなかった
のです。



独立校に決って、クラブ活動にも身が入ります

独立高校への
下ごしらえがで
きたわけです。
それ以降は、
郡市内にも呼び
かけ、高校誘致
起成同盟会を組
織して、機会あ
るごとに関係方
面に働きかけま
した。

皆さんに多大
のご負担をお願
いし、署名運動
も展開しました。
去る七月には

12学級、540人の規模

まもなく
デラックスな校舎も……

さて、独立高
校は、今在学中
の一、二年生を
含んで、十学級
四百五十五名の
規模で発足する
ことになりました。
県では、来年
以降も継続して
毎年四学級募集
を行ううえで、
三年後からは常
時十二学級、五
百四十名を確保
する方針のよう
です。
また、独立高

校になりますと、教職員も現在の
十八名が、大幅に増員され、三十
名以上となる見通しです。

県下の高校に比較しますと、規
模こそ小さめですが、先生・生徒
とも適正な規模で、充実した高校
教育には、ごく理想的だと関係者
は語っています。

校舎の今後の維持管理は、すべ
て県の手により行われることにな
ります。

異常気象の被害者に「報告 会」 税などの減免を「議」

町議会は、先月十七日に第七回
の臨時会を開きました。

審議の中心となったものは、こ
としの異常気象で被害を受けられ
た方々に対する町民税、国民健康
保険料の減免についての条例制定
です。

この結果、次の二つの条例が原
案どおり制定されました。

かいせつ

農業中心で 三割以上減収の人

異常気象で農作物に被害を受け
られた方々には、次により、町民
税、国民保険料が一部減免される
ことになりました。

●減免の対象となる被害者

五十一年中の総所得金額が四百万
円以下で、うち農業所得以外の所
得が百六十万円以下であること。
口ごとの農作物による収入金額
(水稲の共済金を加えた金額)が

りませんが、すでに新年度には、教
室不足も予想され、一部模様替え
が考えられているほか、近年中
はデラックスな校舎の構想も練ら
れているとのこと。

独立高校の誕生とともに、いよ
いよ川西町にも高校生たちの気勢
があげられることになりました。
独自の校風づくりも、すでは
じめられていることでしょう。

●昭和五十一年異常気象等の災害
による被害者に対する町民税の減
免に関する条例

●同じく、国民健康保険料の減免
に関する条例

また、この議会で、一般会計
の補正も行いましたが、内容は、
参議院議員の補欠選挙費の追加な
ど、ごくわずかな補正予算です。

平年の農作物収入の、七十パーセ
ント以下であること。

税、国民保険料とも、この二つの条
件を満たす人が減免の対象です。

●減免される額は
町民税……第四期分の所得割額
のうち、農業所得の部分について
口保険料……十二月以降に納付す
る保険料のうち、農業所得の部分
について

●その他
該当すると思われる方は、早め
に減免申請書を提出してください。
細部は、別途回覧文書のほか、
担当課へお問い合わせください。

年金手帳を
大切にしましょう
いまわが国には、八つの公
的年金制度がありますが、そ
のうち、社会保険庁では国民
年金をはじめ、厚生年金、船
員保険の三つの年金制度を取
り扱っています。

これらの年金制度に加入し
ますと、「年金手帳」が交付
されます。
以前、これらの三つの制度
は、それぞれ独自に被保険者
証や年金手帳を交付していま
したが、現在は一本化して、
三つの制度共通の二年金手帳
になっています。

年金手帳には、氏名、生年
月日をはじめ、加入年月日と
記号番号が記入されています。
この記号番号は、加入者の
分身ともいえるべきものですか
ら、その人の一生を通じて同
一のもが使用され、その後
の事務処理はすべて記号番号
により行われます。

もし、同じ制度の記号番号
を二つ以上もっている人は、
年金係まで申し出てください。
一つの正しい記号番号と加
入期間に整理されます。

また、年金手帳を紛失した
り、汚したり、破ったりした
ときも、その旨申し出れば、
再交付されます。

年金手帳は、将来、年金を
受けるとき必要なものでは
から、大切に保存しましょう。

統制小作料がわかりました

農地(田・畑)の小作料は、統制小作料と、標準小作料の二本だてになっていますが、このうち統制小作料が本年から改正されました。これは、昭和四十二年に改正されて以来ずっとそのままであったため、非常に安い料金となっており、改定の要望が強く出されて

田の最低十アール当り 五六八八円が 六八二六円に
二三〇〇円が 二七六〇円に
畑の最高十アール当り 二一七〇円が 二六〇四円に
畑の最低十アール当り 七九五円が 九五四円に
なお、統制小作料とは、昭和四十五年からの小作地に、標準小作料とは、昭和四十五年以降の小作地に適用される料金です。
細部は農業委員か農委事務局へ

川西町の歩み訂正のおわび

去る四十八年三月に発行した史料「川西町の歩み」に、校正ミスや、その後判明したことがらがありました。ここに訂正表を掲載いたしますので、お手持ちの史料を訂正のうえご覧くださいませよう、お願いします。(教育委員会)

史料 川西町の歩み 正誤表

頁	行	誤	正
一四	三	高志道	北越(高志道)
二八	〃	賀弥(かみ)	賀弥(かね)
〃	〃	那河	那珂
〃	〃	保元元年(一一五)	保元元年(一一五〇)
二九	〃	那上	那上
一五	〃	文治元年(一一八〇)	文治元年(一一八五)
〃	〃	上田越	植田越(上田越)
〃	〃	上田越	植田越(上田越)
〃	〃	建久元年(一一九〇)	建久三年(一一九〇)
〃	〃	上田荘	植田荘(上田荘)
〃	〃	承久元年(一二二〇)	承久元年(一二二九)
〃	〃	保元二年(一一五〇)	保元二年(一一五七)
〃	〃	上田郷	植田郷(上田郷)
〃	〃	深見(津南町)	深見(津南町)等
一六	〃	弘安四年(一一八〇)	弘安四年(一一八一)
〃	〃	応長元年十月日	応長元年十月二日
一七	〃	普門利濟	普門後濟
一八	〃	正平七年二月	正平七年閏二月

頁	行	誤	正
一四	〃	木の島	木野島
二〇	二	正平十五年十一月	正平十五年
二二	〃	会津に移したため	会津に移り
二二	〃	兄利	足利
二八	〃	靈野、くつむぎ	靈池、くつむぎ
三三	〃	太水五年	大水五年
三五	〃	大熊善次郎	大熊善次郎
〃	〃	弘治元年(一一五〇)	弘治元年(一一五五)
二六	〃	水禄二年	水禄二年
二七	〃	水禄三年	水禄三年
二七	〃	西栄寺	西水寺
〃	〃	坂上田村麻呂	坂上田村麻呂
二八	〃	元禄	元禄
二四	〃	〃	〃
二七	〃	〃	〃
三三	〃	〃	〃
三五	〃	〃	〃
三六	〃	〃	〃
三六	〃	〃	〃
四二	〃	金園	金園
四四	〃	木挽延三三人	木挽延三三人
四六	〃	白川預	桑名預

一日赤の活動 — 家庭看護法などの講習会も

家庭での病人を扱う家庭看護法、急病人などを手当する救急法、水上安全法というのがそれ、希望があれば日赤東支部の講師がいつでも出かけてくれるものです。

写真で紹介しているのもその一つ、これは先に橋地区で行われた家庭看護法の講習会です。このときは、同地区の婦人会員およそ四十名が参加し、病気の予防や、簡単な看護のしかたについて熱心に勉強しました。このほか、七月には、仙田地区でも水上安全法の講習会を開

き、いずれも好評を得ています。今のところ町内では、年に二、三回くらいしかこうした講習会を開いていませんが、ゴルフや職場などからの要請があれば、何回でも無料で開催して頂けるようです。

病人の簡単な手当や、ケガ、急病人の応急手当などの初歩的な知識は、日ごろから身につけておきたいもの。

日赤の活動を理解するチャンスでもありますので、機会をみて皆さんも受講してみませんか。問い合わせは社会課へどうぞ。



町内さんぽ

衆議院議員 総選挙の結果

去る五日行われた衆議院議員総選挙の、川西町の結果は次のとおりでした。

△有権者数 男 三五八二人

△投票総数
女 三八二人
合計 七四〇三人

△投票率
女 三二八人
男 三四七二人
合計 六六四〇人

△投票率
男 八八・四七%
女 九〇・八七%
合計 八九・七一%

△投票総数のうち
有効投票 六五五二票
無効投票 八八票

△候補者別得票数・得点順
白川 勝彦 二三五二票
木島善兵衛 一七二五票
高鳥 修 一三一五票
塚田とおる 八一八票
大竹 太郎 二七六票
須藤友三郎 六六票

広報縮刷版

配布もれはありませんか

都合により、広報かわにし縮刷版の発行が遅れ、申しわけありませんでした。

ご注文いただいた方には、それぞれお届けしたつもりでおりますが、配布もれはありませんでしょうか。注文したにもかかわらず、まだ届いていない、という方がありましたら、広報係までご連絡ください。

なお、部数に制限がありますが改めて購入を希望する方がありましたら、早めにお知らせください。代金は、一冊四千円です。

また、二十周年を記念して作成

年賀状は20日までに

年賀状は、十五日から受け付けをはじめますが、年末がおし迫ってから出されますと、元旦に間にあいません。

早めに準備して、おそくとも二十日までにお願いします。

なお、年賀状をお出しいただく

意 善 寄贈など

88仁田の須藤亮助さんから、図書山善備考録その一(十二世、山田浩一著)の寄贈がありました。

仁田の五升苗塚堤に貢献された柏崎の素封家を記録されたものです。センター図書室に備えてあり中心になる。

戸籍の窓から

うぶ声ーおすこやかに

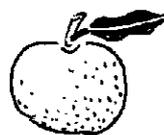
- 内山 竜哉 茂 二男新町新田
- 樋口 朗子 恵美 二女発電所通
- 宮本 奈奈 昌幸 二女発電所通
- 南雲 美香 瑞男 二女 中仙田
- 中村美智代 忠 二女 坪山
- 平岡 好美 正秋 長女 伊友
- 中村 将和 和男 長男 山野田

たかさごーご田満に

- ◎新婦 池竹 久武 原田
- ◎新婦 藤巻とよ子 小千谷から
- ◎新婦 高橋 博行 原田
- ◎新婦 藤木キミイ発電所通から
- ◎新婦 中村 卯一 坪山
- ◎新婦 村山 セツ 十日町から
- ◎新婦 保坂 久夫 高原田
- ◎新婦 藤ノ木美代子津 南から
- ◎新婦 長谷川政栄 赤谷
- ◎新婦 関 良子 小千谷から
- ◎新婦 小林 邦男 中仙田
- ◎新婦 池田 京子 中里から
- ◎新婦 清水 昇 高原田
- ◎新婦 村山 道子 十日町から
- ◎新婦 小林 重信 中仙田
- ◎新婦 佐藤サチ子 室 鳥から
- ◎新婦 渡邊 秀夫 元町
- ◎新婦 野澤 幸子 野口から
- ◎新婦 水落 清治 仁田
- ◎新婦 三浦 照子 福 島から

昇天ーごめい福を祈る

- ◎新婦 若山 博良 新町新田
- ◎新婦 滋野十四子 野口から
- ◎新婦 高橋 明博 坪山
- ◎新婦 西川とみ子 静岡から
- ◎新婦 丸山 秋男 原田
- ◎新婦 村山 容子 十日町から
- ◎新婦 平野 由隆 四郎兼
- ◎新婦 庭野 夏子 十日町から
- ◎新婦 田口 恵 木落
- ◎新婦 中山美智子 千葉から
- ◎新婦 中條 誠一 大倉
- ◎新婦 熊澤 樽子 東京から
- ◎新婦 高橋 昭司 伊友
- ◎新婦 赤坂美代子 福 島から
- ◎新婦 高橋 誠二 三領
- ◎新婦 村越 絹子 野口から
- ◎新婦 小林 功 元町
- ◎新婦 小林 春子 元町から
- ◎新婦 星名 俊明 高原田
- ◎新婦 野畑 幸枝 広 島から
- ◎新婦 保坂 好夫 沖立
- ◎新婦 平野 久代 東善寺から
- ◎新婦 柳 紀夫 上野
- ◎新婦 樋熊 玉江 仁田
- ◎新婦 野上カツ 田中町
- ◎新婦 高津フミヨ 寺ヶ崎
- ◎新婦 登坂セツ子 赤谷
- ◎新婦 小川 大作 赤谷
- ◎新婦 小幡 リセ 木落
- ◎新婦 田村 マサ 鶴吉
- ◎新婦 喜多 ハツ 学校町
- ◎新婦 南雲 トミ 寺 尾
- ◎新婦 池竹マツ野 原田
- ◎新婦 小林シカ 四郎兼
- ◎新婦 小海 ツ子 小根岸
- ◎新婦 金子富太郎 岩 瀬
- ◎新婦 大久保トミ 野口



かわにし 俳壇
太田白南風選
赤谷 小川 岳陽

賽銭の箱裏厚く神の留守
葉の落ちし柿に夕日の当りをり
追い時きの大根もよく漬け頃に
ひる作り豊作の大根とる準備

丸窓を開けて山茶花ながめ居る
霜の朝別れの握手ぬくかりし
小春日の日にたまりに鶏かたまりて

秋晴や北へ一すし飛行雲
秋晴のもつれ黄蝶の高くとぶ
秋晴や旅立ちつばめ居並びて

天井に新巻下がり年の暮
初雪をうすくかりて寒椿
夜なべする母の影さす障子内

小春日にとつと片づく洗物
『俳句一口講座』(5)
●ことばを選択すること。

俳句とは心にあることを表わすこと
とは選びと、ことば並べである。
詩はことばの芸術であるからそれ
にびたりしたことを探し出す
ことである。一字入魂というよう
に、テ、ニ、ヲ、ハも全体の意味
に連がる重要な要素となることに
よく注意し、味読すべきである。

ふきのとう会員作品
大根干す長き工場機の町 けい子
大根煮ありし頃偲びつゝ 酔月
冷害の年大根は豊作な よしを

●ふきのとう例会
十二月二十三日夜六時、上野支
所にて。

読者に聞く

このほど、独立高校が決った川西分校の生徒に、その心境や、今後の抱負などを含め伺ってみました。都合により、二回に分けて掲載いたします。

独自の校風づくり

赤谷登坂康幸君(二年)

広報かわにしに感ずることとは?

◎毎月欠かさず見ているが、若い人を引きつける魅力に乏しい。
施設の不足といったこともあるのだろうが町全体に若人の活動が消極的だと思う。

広報紙にも若人の生の声や、活動の姿を紹介してほしい。



◎うれしさはあるのだが、そのこととより
も、責任の重大さを痛感する。
これは生徒一人ひとりの責任であり、自覚でもあると思うが、とくに、切り替えるときなので、十学級の引率や指導が大変だと思っている。

独自の校風づくりに励みたい。
抱負より
不安感が強い

木落 山家正子さん(二年)

◎一応見るけど、政治的なことはいや、小さい記事や、戸籍の窓が



表紙の写真の印象で、よく見るときとそうでない場合がある。とくに、写真の良否が、紙面全体を左右するよう思う。
独立校になったの抱負は?

◎心の準備ができていない、というのか、抱負より不安感の方が多い、独立校実現に努力してくれた人たちに、こたえられるかどうか心配……………。

学校の行事やクラブ活動など、すべて
自分でやること
となるので
早い機会に、

校舎や、体育館の整備をお願いしたい。